２．　里地里山とは

２－１　生物多様性と里地里山の認識

里地里山は、奥山と都市の中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、ため池、草原等で構成される地域概念です。農林業などにともなう、さまざまな人間の働きかけを通じてその自然環境が形成・維持されてきました。

里地里山は、メダカやカエル、カタクリなど、さまざまな生きものを育んでおり、そのなかには絶滅のおそれのある種（希少種）が多く含まれています。たとえば、全国の希少種の集中分布地域の５割以上が里地里山にあたります。また、身近な自然とのふれあいの場、環境学習のフィールドとしても大切です。しかし、近年は薪や炭がほとんど作られなくなるなど、二次林（雑木林）の経済的な価値がほとんどなくなっています。さらに、農山村では過疎化のために手入れが行われなくなり、一方、都市近郊では開発が進むなど、里地里山の質の低下や消失が目立っています。このため、平成 14 年３月に策定された「新・生物多様性国家戦略」では、わが国の生物多様性の３つの危機の一つに里地里山の危機を位置づけ、重点的に取り組むこととしています。

＜里地里山の全国分布＞

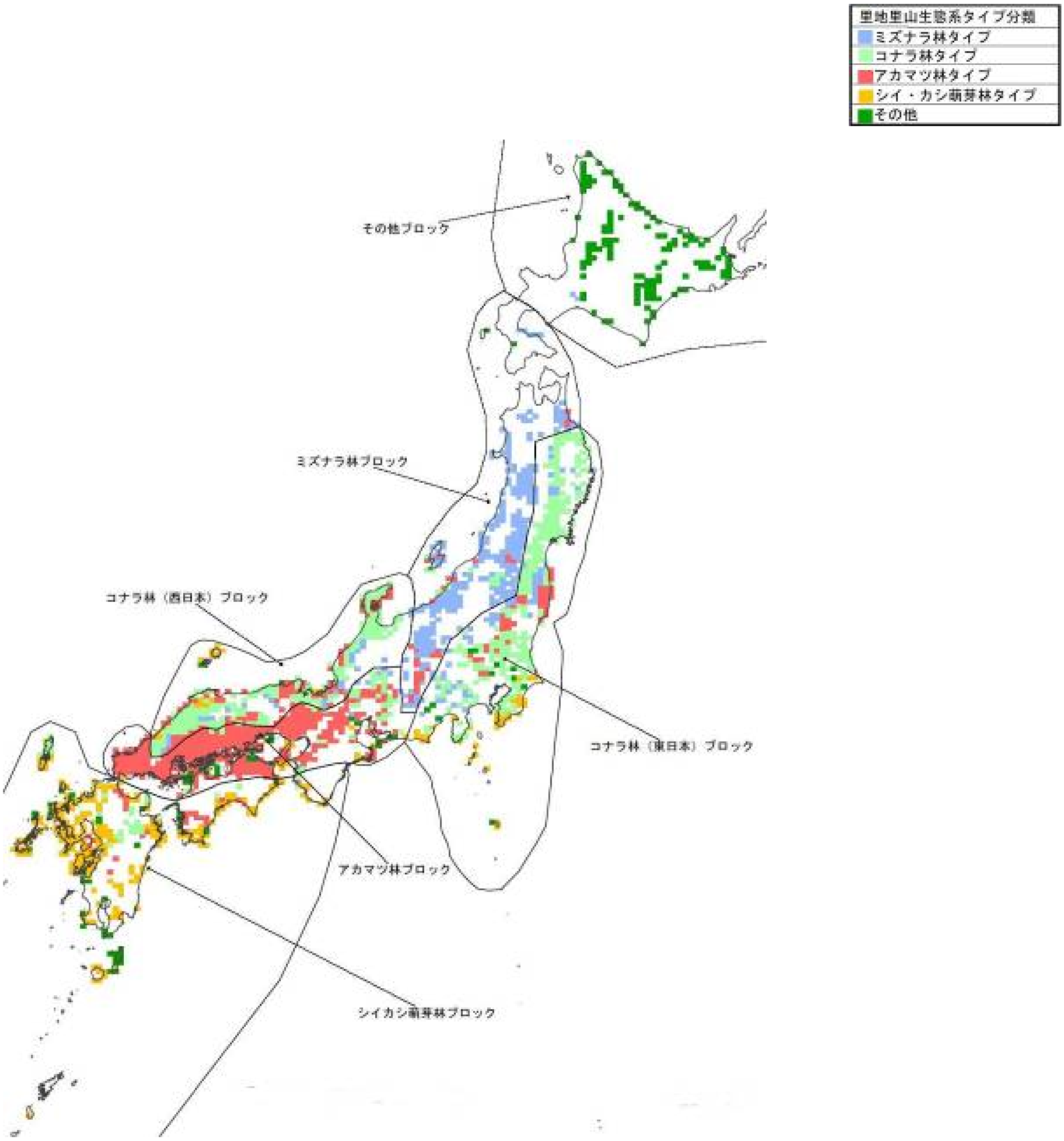
里地里山（二次林や農地を主体とした地域）は国土の約４割を占めています。里地里山はその骨格となる二次林のタイプによって５タイプに分類され、それを基に以下のように６ブロックに区分されます。

（環境省「里地里山パンフレット」参照　http://www.env.go.jp/nature/satoyama/pamph/）

里地里山希少種集中分布図

里地里山ふれあい活動団体分布図

①シラカンバ二次林などを中心とした里地里山…放置すると、やがて自然林に代わっていく。
②ミズナラ二次林を中心とした里地里山…放置すると、やがてブナなどの自然林に代わっていく。
③コナラ二次林を中心とした東日本の里地里山…人口が密集していて開発が多く、タケ・ササの繁茂が目立つ。
④コナラ二次林を中心とした西日本の里地里山…人口密度が低く、雪のやや少ないところではタケの繁茂が目立つ。
⑤アカマツ二次林を中心とした里地里山…人口が密集しているが、ため池なども多く、希少種も多い。開発やマツ枯れ、タケの繁茂の問題がある。
⑥シイ・カシ萌芽林を中心とした里地里山…タケが繁茂しなければ、やがてシイ・カシの自然林に移行する。



図：二次林の植生による里地里山の全国分類